



## EBPMを当たり前

行政評価局政策評価課課長補佐

**風早 勇作** KAZAHAYA Yusaku

平成 26年 4月 総務省採用  
人事・恩給局公務員高齢対策課企画第一係併任第二係(～26年5月)  
平成 26年 5月 内閣官房内閣人事局高齢対策第一係 兼 高齢対策第二係  
平成 26年 8月 内閣官房内閣人事局退職手当第一係  
平成 28年 4月 内閣府公益認定等委員会事務局総務課(～29年6月)  
平成 29年 7月 同 公益認定等委員会事務局総務課総括係長(～30年6月)  
平成 30年 7月 総務省行政管理局主査(政府共通プラットフォーム担当)  
令和 2年 7月 同 行政管理局副管理官(政府共通プラットフォーム担当)  
令和 3年 8月 同 行政管理局副管理官(独立行政法人評価総括担当)  
令和 5年 7月 現職

### EBPMは当たり前?

EBPMは、エビデンスに基づいて政策の企画・立案をしましょう、といういわば「当たり前」のことなのですが、意外とこの「当たり前」の取組は簡単ではありません。私が担当している政策評価制度は、各府省が自らの政策について評価を行い、その結果をより良い政策の改善につなげる取組ですが、制度施行から約20年を経て、評価書を作成するだけの形骸化した作業になっているのではないかと指摘されていました。これを受けて、令和5年に、エビデンスに基づいた政策評価の結果が真に政策の企画・立案に役立てられるよう、画一的な政策評価書の様式を止め、政策の特性に応じた評価を可能にしました。今、私は、新しい制度運用の下で、各府省が直面する課題や悩みに対応しつつ、政策の改善につながる評価になるよう取り組んでいます。

### 行政は絶対正しい?

例えば、各府省は、政策評価に基づいて政策を改善すると、「今までの政策が悪かったってことじゃないか!」と批判されるのではないかとおそれてい

す。しかし、現実として、これだけ多様かつ困難な社会課題の解決に取り組む政府が、最初から全ての政策をパーフェクトに実施することは不可能です。一昔前、うまくいっていない政策・事業に対しては、廃止・中止が叫ばれましたが、それだけでは本当に目指していた社会課題の解決には至りません。政策がどこでうまくいけなくなり、どう改善をすれば、実現したい課題の解決に近づけるかを、政策評価の取組を通じて考えることが大事です。

### 政策評価のあるべき姿は?

政策評価は、その特性に応じて様々な評価ができるよう、制度運用を見直しましたが、実際に、それぞれの府省に合った政策評価を考えることは簡単ではありません。政策評価に悩む府省と議論しながら、今の政策の状況をどのように捉えれば適切な評価と言えるのか、どのような分析・評価があれば政策の立案・改善に役立てられるのか、といったことを日々考え続けています。私はこのように1つの制度を通じて、様々な府省の政策のあるべき姿を考え、ひいては霞が関の政策全体を良くしていくことは、総務省ならではのやりがいのある仕事と感じています。

皆さんも、EBPMを「当たり前」にして、政府の政策が良くなるよう、一緒に考えてみませんか。



政務三役と若手職員との意見交換会(Wishプロジェクト)



「住民が苦しい時にこそ支えになるのが行政であり、この国の行政全体をより良くしていくことを通して社会に貢献したい」  
学生時代に災害で被災した際に感じたことが、私が総務省を志望したきっかけでした。

### これまでを振り返って

入省して10年ほど、独立行政法人改革、国家公務員の働き方改革、自治体DX、政策評価、大臣政務官秘書官など行政運営の基盤となる分野を中心に多様な仕事を経験してきました。

どの仕事でも、政府全体に共通する制度を担当する立場から現状をより良くしていくためには何が必要かを考え続けています。

また、出向した内閣官房では、政府全体の目線から国民のためになる政策を考える一方で、赴任した自治体では、地域で頑張る住民の皆さんの想いに日々向き合いながら政策を考える経験をするなど、総務省が提供してくれる幅広いフィールドで仕事に取り組みことで自らの視野を広げ、一人の人間としても成長できる機会に恵まれたと感じています。

### より良い統計がより良い政策を生む

現在、私が担当しているのが、総務省が政府全体の司令塔としてルール整備を行っている統計制度です。

統計は、国家の政策判断に不可欠なものが、社会の急速な変化を背景に正確なデータやエビデンスに基づく政策判断の必要性が増す中で、社会の姿を映し出す「鏡」としてこれまで以上に重要な役割を担っています。

私は部局の取りまとめとして、より質の高い公的統計の整備のため、ビックデータの活用、統計人材の育成、自治体との連携、国連等の国際的な議論への参画といった様々なテーマに携わっていますが、政府全体で横断的な統計制度を所管し、適切に運用する環境づくりを進める総務省が果たす役割の大きさを実感しています。

### 時代の変化は変革のチャンス

急速な少子高齢化や人口減少が進み、これまでの制度が前提としていた価値観が変化する中では、行政も常に変革していくことが必要です。

そのような中で、総務省では、国民一人一人の目線に立って、特定の分野に捉われることなく国家行政のあるべき姿を追求することができます。

簡単なことではありませんが、より良い未来を築

くために、意欲あふれる皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



モンゴル国家統計局の職員と統計データ活用について意見交換



赴任していた長野県小布施町にて  
今も定期的に訪れ町の皆さんにお会いするのが楽しみです



## 国家行政のあるべき姿を追求しよう

政策統括官(統計制度担当)付 統計企画管理官付  
管理官補佐(総括担当)

**須藤 彰人** SUTO Akito

平成 26年 4月 総務省採用  
行政評価局評価監視官付(独立行政法人第一担当)  
平成 26年 5月 同 行政管理局管理官付(独立行政法人評価総括担当)  
平成 27年 8月 内閣官房内閣人事局総括係  
平成 29年 7月 同 内閣総務官室主査  
平成 30年12月 併任 内閣府大臣官房総務課係長(～元年6月)  
命 皇位継承式典事務局局長  
令和 元年 7月 長野県小布施町企画政策課長  
令和 3年 4月 同 企画財政課長  
令和 3年 7月 総務省自治行政局住民制度課デジタル基盤推進室課長補佐  
併任 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター(～5年7月)  
令和 5年 7月 同 行政評価局政策評価課課長補佐  
令和 5年 9月 同 総務大臣政務官秘書官  
令和 6年11月 現職